

令和3年8月20日

## 南の風東京 2020 オリンピック特集号VI

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

後半が始まります。リードを広げて突き放したい日本と、逆転を目指すフランスの攻防がスタートします。

フランス7番グルダのポストのシュートが決まる。日本は町田のドライブからキックアウトパスを受けた赤穂が3Pシュートを決める。続けてリバウンドから町田がボールを運び、走り込む赤穂がランニングシュート。フランスがファウルを犯しフリースロー2本が入る。

フランスのシュートが外れる中、またもや日本はリバウンドから町田が運び、ドリブルシュートに行くと見せかけドリブルターンして、宮澤にキックアウトパス。宮澤が3Pシュートをきっちり沈める。フランスたまらずタイムアウト。日本49-36フランス。この時点で日本の3Pシュート確率7/14。

タイムアウト明け、グルダのポストでのフェーダウェーシュートが決まる。その後、日本はリバウンドからのトランジションで、町田からのパスを受けた赤穂が右ウイングから、ドリブルシュートに行くとみせかけ反転してドリブルターンして、再度反転してドリブルシュートに行き得点をゲット。

フランスはすぐさまグルダがポストからのシュートで得点する。直後に日本は林がペイントにカットして、町田からパスを受けるが打てないと見るや、町田にリターンして自分がポップアウトして再びリターンパスを受けて、3Pシュートを沈める。絶妙のプレーであった。54-40日本がリード。

フランスはグルダが身長を生かして、リバウンドシュートを決める。日本は林のサイドスクリーンを利用した赤穂がカットして、町田のパスを受けてレイアップシュート。

続いてフランス、ジョアネスのパスをカットした町田がレイアップに行くが外れる。すかさず高田がフォローするが相手に囲まれ打てない。町田にパスした瞬間、宮澤が跳び込みシュートを決める。見事な連携プレーであった。フランスはグルダが意地を見せペリメーターのシュートを決めるが単発となる。

日本はその後パス回しが途切れると、町田が自ら3Pシュートを決め切る。61-46日本がリード。

ここまで3Pシュート確率9/17

日本は高田と交代したオコエが、町田からのパスを受けて3Pシュートを決める。フランスはフリースローで何とかつなぐが、フィールドゴールが決まらない。終了間際、オコエがピック＆ロールからゴール下をきっちり決める。第3Q終了、日本68-50フランス。

町田選手の圧巻のアシストパスがさく裂したクウォーターでした。視野の広さと相手にパス出所を読ませないスキルは目を見張りました。また赤穂選手の3Pシュート、ドライブ、献身的なリバウンドもチームへの貢献度が大でした。

さあいよいよメダル確定が掛かる、決勝進出に向けた第4Qが始まります。

スタートは、町田、宮澤、馬瓜、オコエ、東藤の5人。

立ち上がり東藤が左ウイングから果敢にドライブで攻め、ファウルをもらう。フリースローを2本沈める。続けてエブリンが左からドライブを仕掛け、レイアップで得点する。さらにターンオーバーからエブリンが走りシュートに行く。たまらずフランスがファウル。2本とも決まる。ここで宮澤が長岡と交代する。フランスは攻めあぐね、1分半以上ノーゴールが続く。フランスがタイムアウト。

タイムアウト明け、フランスは23番ジョアネスがトップから得意のダブルクラッチレイアップを決めてようやく得点が入る。日本74-52フランス。

日本は交代した宮崎がスクリーンを利用して、右ウイングからドライブ。エンドラインからカットした長岡が合わせてバックシュートを決める。フランスはオフェンスリバウンドから、ボールをキックアウトし3Pシュートを決める。続けてディフェンスリバウンドから、ジョアネスが走りレイアップシュートで得点。

ターンオーバーが続いた後、日本は宮崎がドライブからレイアップを決める。何とか打開したいフランスだがシュートが思うように決まらない。そんな中、ジョアネスが交代で出ていた三好とのリバウンド争いでアンスコを取られる。フリースローを1本決めた後、再び日本ボールとなり三好が3Pシュートをきっちり決める。

その後フランスは、3Pシュートやゴール下の合わせ、ターンオーバーからのドリブルシュートで反撃し、オールコートプレスで勝負するが、点差を大きく縮めることはできない。

トム・ホーバスコーチは、最後までしっかり引き締めるためタイムアウトで檄を飛ばす。宮崎に代わって本橋が入る。

そして、その瞬間が訪れる。 タイムアップ！ 日本決勝進出！！

日本87-71フランス。この結果、日本が史上初の決勝進出を果たし、銀メダル以上が確定した。

日本は4Qでも、確率の落ちない3Pシュートと、スクリーンやドライブからの合わせで得点を重ね、フランスを引き離しました。相手の反撃意欲を削ぐような戦いぶりでした。

準決勝、日本VSフランスのスタッツを紹介します。

	2 P	3 P	F G	F T	OR	DR	TR	AP	TO
日本	54% 21/39	50% 11/22	52% 32/61	75% 12/16	4	32	36	28	17
フランス	47% 22/47	29% 7/24	41% 29/71	100% 6/6	8	25	33	21	14

何といっても3Pシュート、11/22 50%は驚異的な数字です。そして日本代表の強みは、全員が3Pシュートを決め切る力を持っていることです。空いたら打つ、ディフェンスが少々反応しても打つという気持ちの強さが見られました。試合前半に確率が悪くても、打ち続けることで後半にはアジャストして確率をアップさせる凄さがありました。豊富な練習量からくる自信と覚悟が感じられました。

またリバウンドの数(36)でも、フランスを上回る数字を残しています。平均身長が低い日本ですが、全員が「絶対取るんだ！」という強い精神力の賜物でした。

さらに、このスタッツではありませんが、日本代表の5試合(準決勝を含め)の3Pシュートの平均は43.6%という、他のチームを寄せ付けない圧倒的な数字を残しています。

そして何と言っても圧巻だったのが、町田選手のアシストの数です。スタッツにあるように、フランス戦の日本のアシストの数は28ですが、なんとそのうち18は町田選手が残した数字です。この1試合のアシスト数、18はオリンピックレコードでした。ここでも歴史を塗り替えました。

海外のメディアは、町田はG・O・A・T (Greatest of All Time) ⇒史上最強と、称えています。

また、町田選手の1試合平均12.5のアシスト数は、アシスト王として東京オリンピックのオールスター・ファイブに選出されました。

さあいよいよ決勝です。史上一度も到達できなかった未知への挑戦となります。金メダルを懸けてアメリカに挑みます。